

また、^{そんえい}村宮の野球場、体育館、テニスコート、公民館、ユースピアゆがわなどの公共^{せつ}し^{しゅうじつ}設の充実にもつとめました。し設ができたことで、村民の生活もいっそう楽しく豊かになりました。



ユースピアゆがわ



体 育 館

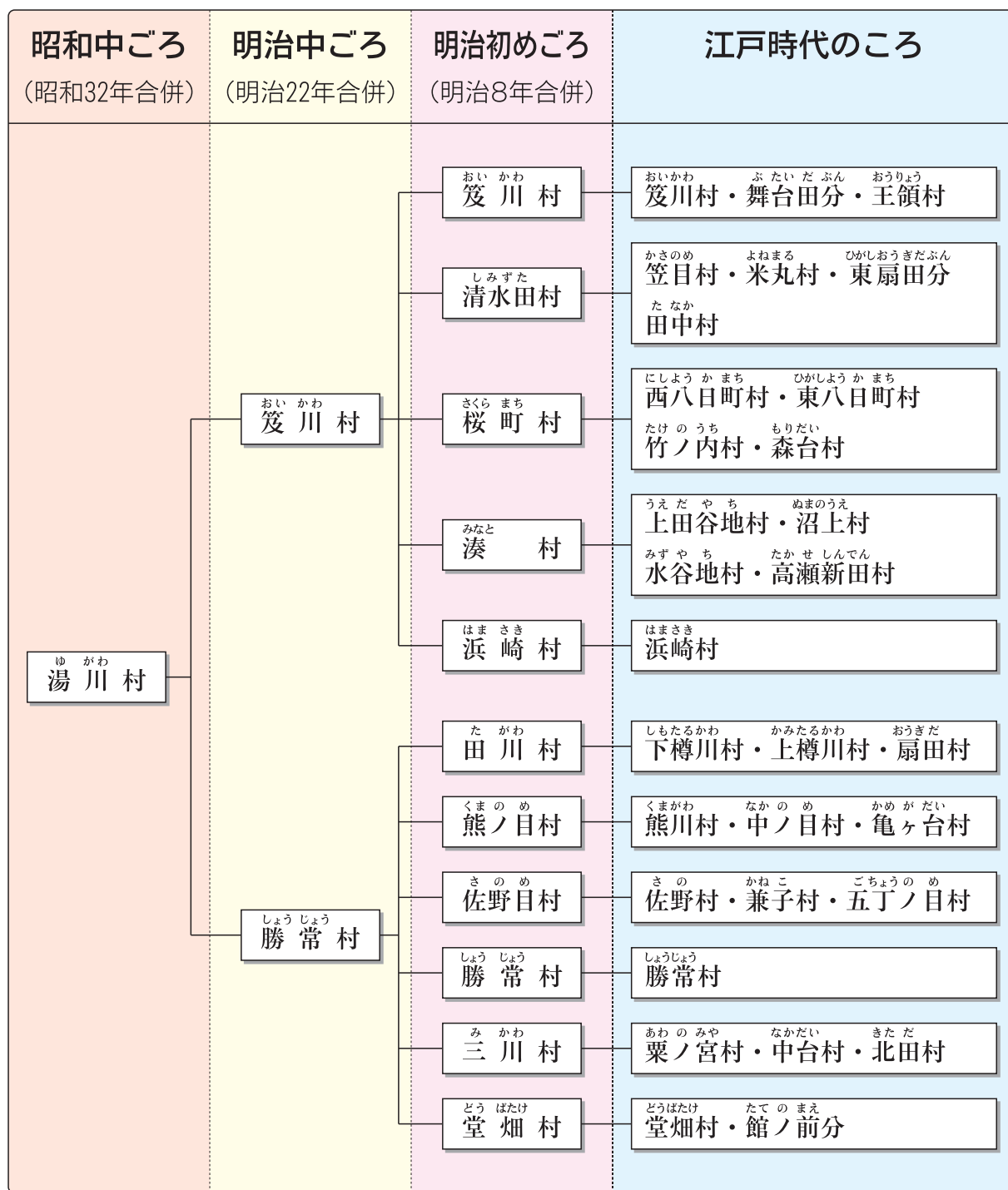


テニスコート



野 球 場

下の図は湯川村が1つになるまでのうつりかわりを表したものです。
表からわかるように、31村から11村、そして2村から湯川村になりました。
わたしたちのすんでいる地区は、どのようにかわってきたのか調べました。



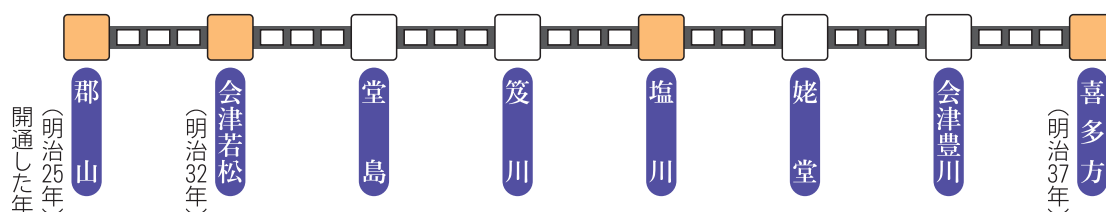
(『福島県市町村沿革』による)

(3) 道路と交通のうつりかわり

てつどう 鉄道と湯川村

わたしたちの村に鉄道が通ったのは、1904年(明治37年)です。それから磐越西線ばんえつさいせんの会津若松駅や喜多方駅、その他の駅が大変にぎわい、無人おいかわの笈川駅あしかわにもぎわっていました。昭和47年(1972年)からは、それまでの蒸気機関車(SL)にかわってディーゼル機関車が走るようになりました。

○鉄道のうつりかわり 鉄道が開通した年(磐越西線) (■…有人駅 □…無人駅)



鉄道がしかれて、交通が便利べんりになると、人や物の行き来いききがさかんになりました。

近ごろは、自動車の発達で、鉄道を利用する人が少なくなりました。今では、朝夕、通勤・通学つうきん利用者のために、平日は上下とも5本ずつ笈川あしかわ駅に停車ていしゃしています。



今の笈川駅
1934年(昭和9年)に笈川駅が開設されました。

平成30年現在の時刻表

11. 2000. 12. 10. 11: 00 ~ 11: 30

湯川村は合併当時(昭和32年)、2つの国道が走っていました。勝常地区内を通る国道49号線は、むかしは越後街道とよばれていて、1953年(昭和28年)に国道に指定されました。この国道49号線には、平成26年に「道の駅 あいづ湯川・会津坂下」が設置され、交通の要所となっています。笈川地区内を通る国道121号線は、むかしは米沢街道とよばれていて、同じく1953年(昭和28年)に国道に指定されました。

下の表にあるように、1959年(昭和34年)に3つの県道が指定されてからは、^{きゅうそく}急速に車の数がふえ、村道との交差点がきけんになったため、村道のはばを広げたり、安全のためのし設の設置が^{いそ}急がれました。そして、県道会津坂下～河東線、^{はまさき}浜崎～^{こうや}高野～会津若松線が^{ほそう}舗装されました。1970年(昭和45年)から村内を走る県道が^{かいりょう}舗装され、改良工事が大はばに進みました。

やがて121号線の交通がはげしくなり、^{こんざつ}混雑するようになったため、昭和52年から塩川バイパス工事が始まり、昭和60年に開通しました。

昭和63年には村道は167を数え舗装率は69.1%で県下一となりました。

さらに、平成15年から会津縦貫北道路工事が始まり、平成27年に全線開通となりました。

○道路のうつりかわり

	路 線 名	指 定 年 度
国 道	49号	昭和28年2級国道 30年一級国道 40年一般国道
	121号	昭和28年2級国道 37年一級国道 40年一般国道
	会津縦貫 北道路 (121号)	平成6年地域高規格道路計画 路線に指定 平成27年9月全線開通(喜多 方IC～会津若松北IC)
県 道	会津坂下 ～塩川線	昭和34年
	熊ノ目 ～浜崎線	昭和34年
	浜崎～高野 ～会津若松線	昭和34年
主 道 要	会津坂下 ～河東線	昭和51年4月主要地方道 同11月県道



バスのうつりかわり

バスは、わたしたちの生活にとって大切な乗り物です。

会津バスが湯川村を走るようになったのは、1949年(昭和24年)です。バスは道路が整備^{せいび}されるとともに発達してきました。



湯川役場前停留所

○湯川村地内バス路線運行^{ろせんうんこう}

路線名	開始	廃止およびその他
会津若松～喜多方線	昭和24年	運行中
会津若松～会津坂下線	昭和24年	運行中
広田停車場～戸ノ口線 (広田～坂下線)	昭和28年	昭和51年廃止
会津若松～笈川線	昭和35年	運行中
会津若松～下扇田線	昭和41年	平成5年廃止
会津若松 (高速バス)～新宿・東京線	平成27年	運行中



会津若松坂下線(49号)佐野停留所

バスは、会津若松市内の買い物や電車利用にもべん利で多くの人の足として、したしまれてきました。自家用車^{じかようしゃ}がふえるとバスを利用する人が少なくなり、廃止^{はいし}された路線もあります。しかし、今でもなくてはならない大切な乗り物です。

(4) 村に残る古いもの

村で大切にしているもの

歴史^{れきし}の古いわたしたちの湯川村には、むかしから伝わっている大切なものがたくさんあります。その中には、国宝^{こくほう}の仏像^{ぶつぞう}3軀^く、国指定重要文^{こくしていじゅうようぶん}化財^{かざい}10件、県指定重要文化財2件、村指定の文化財が26件あります。

国 宝



木造月光菩薩立像

木造日光菩薩立像

木造薬師如来坐像
(勝常寺・勝常)

勝常寺薬師堂^{やくしどう}に安置されている本尊^{ほんぞん}の薬師如来^{やくしにょらい}のどっしりとした重量感^{じゅうりょう}、左右のわき侍^{わきざむらい}の菩薩^{ぼさつ}のすらりとした整った美しさ^{ととのうつく}は、その前に立つ人の心を引きつけます。ともに、東北^{東北}の仏像^{ぶつぞう}では唯一^{ゆいいつ}の国宝です。私たちの大きなほこりです。

国重要文化財

勝常寺^{だいどう}は大同2年^{とくいつしやうにん}(807年)徳一上人によって開かれたと伝えられています。建てられた当時はたくさんの建物^{たてもの}がありましたが、現在残っているのは、この薬師堂^{むろまち}だけで、室町時代はじめごろの再建^{さいけん}といわれています。



勝常寺薬師堂^{やくしどう}(会津中央薬師堂)



もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう
木造十一面観音立像



もくぞうじぞうほさつぞう
木造地蔵菩薩像



もくぞうしょうかんのんりゅうぞう
木造聖観音立像



もくぞうてんぶりゅうぞう
木造天部立像
こくうぞうほさつ
(虚空蔵菩薩)



もくぞうじぞうほさつりゅうぞう
木造地蔵菩薩立像
あめふりじぞう
(雨降地蔵)

もくぞうしてんのうりゅうぞう
○木造四天王立像

木造四天王立像は如来や菩薩を守る神として作られました。多聞天像は北を、広目天像は西を、持国天像は東を、増長天像は南を守ります。



たもんてんぞう
多聞天像



こうもくてんぞう
広目天像



じこくてんぞう
持国天像



ぞうちょうてんぞう
増長天像

県指定重要文化財

2件



もくぞうじぞう ぼさつざぞう
木造地藏菩薩座像
(禅定寺・下樽川)

下樽川地区にある、禅定寺にあります。
木製の坐像としては、県内最古ともいわれています。

1240年～1270年代のものと推定されます。

目鼻だちが下方に集まって、頭の鉢が開き、少年風とも称したい風情があります。

半眼に見開いた眼、強く結んでやや突き出し気味になったくちびるには、内省的な意志すら感じさせられます。

湯川村指定文化財

26件

湯川村には、彫刻12件、絵画4件、
工芸6件、考古1件、史跡2件、無形民俗文化財1件の村指定文化財があります。



もくぞうとくいつ ぼさつざぞう
木造徳一菩薩坐像
(勝常寺・勝常)



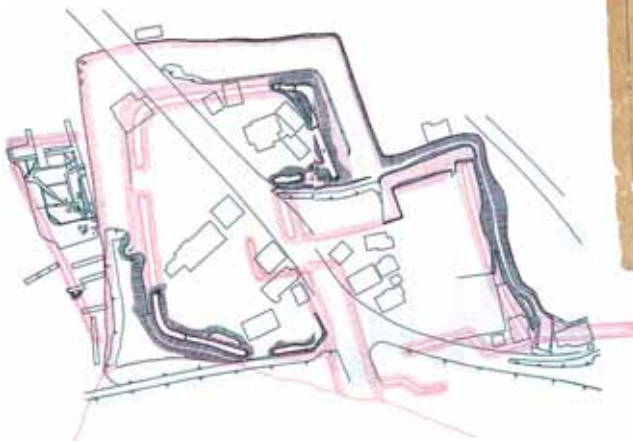
けんぼんちゃくしよくりょうかいまんだら ず たいぞうかい
絹本着色両界曼荼羅図(胎蔵界)
(勝常寺・勝常)

湯川村の^{はまさきじょうあと}浜崎城跡や^{きた だじょうし}北田城址は、^{し せき}村指定文化財の史跡です。

【浜崎城跡】



浜崎城跡は、中世から近世にかけて、
会津盆地の^{ほんち}ほぼ中央、米沢街道の要所で
ある浜崎村にあります。^{べつめい ふじもり}別名を藤森城と
も言い、^{しゅめ きす}浜崎主馬が築いたとされていま
す。（「会津古罫記」による）



浜崎城 縄張り図

【北田城址^し】



北田城は、北田集落の北方約1km、^{にっぽし}日橋川と^ゆ湯川の合流点の南西一帯の河原より、5m高い丘上にあります。佐原次郎^{ひろもり}広盛が築いて住み、^{きただ}北田氏と称しました。（「会津古塁記」による）



このように^{れきし}歴史の古い湯川村にはたくさんの文化財^{ざい}があります。自分たちの地区にある文化財を調べることも大切なことです。

【村指定文化財】



もくぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう
木造聖観音菩薩立像
ちょうしょうじ
(長照寺・沼ノ上)



もくぞうやくしにょらいざぞう
木造薬師如来坐像
じょうしょうじ
(常照寺・笠ノ目)



もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう
木造十一面観音菩薩立像
かんのん
(観音寺・中ノ目)



せきとう
キリシタン石塔
ぜんじょうじ
(禅定寺・下樽川)



だいごりんどう
大五輪塔
へんしょうじ
(遍照寺・浜崎)



わく
北田城出土井戸杵(A)
(北田)



北田城出土井戸杵(B)
(北田)

むかしからの行事

湯川村には、むかしから続いている行事がたくさんあります。

【勝常念仏踊り】…県指定無形民俗文化財

勝常寺の薬師如来の祭礼の時に行われる勝常念仏踊りは有名です。4月28日には村民をはじめ、県内外各地から人がたくさんおとずれます。踊りは戦前はさかんに行われ、戦時中は、一時中断し、戦後昭和35年ごろまで行われました。その後また中断しましたが、昭和55年に復活しました。その年の安全と豊作を祈願します。



薬師堂内における儀式



太鼓打ち



勝常小学校児童による演奏

わたしたちの家にも、むかしから伝わっている行事がたくさんあります。お正月のだんごさし、歳の神、3月のひな祭り、5月の端午の節句、7月の七夕祭りなどがそれです。



春日神社(浜崎)

また、9月の秋祭り、春日神社例大祭、百万遍や大般若などもむかしながらの伝統を守って行われています。

わたしたちは、むかしから伝わってきた行事をこれからも大切にしたいものです。

【昔から伝わる行事】



さい かみ
歳の神

1月15日ごろに行われる。田んぼや畑に木を組み合わせ、わらやしめなわ、古いお札などをもちやす。この火で焼いたもちやすめを食べると脳病みしないと言われる。



だんご
団子さし

1月14日ごろにミズキなどの枝を切って、これに米の粉で作っただんごなどをさす。その年の^{ほうさく}豊作を願う。



だいはんにゃ
大般若

1月～3月までに各地区で行われている。お^{きょう}経を読む。その年の家内安全、除災招福^{じょさいしやうふく}を祈った。



念珠



ひゃくまんべん
百万遍

お釈迦様の命日にちなんで行われる。
108個のつらな^{じゅず}数珠を手に持ち^{ねんぶつ}念仏をとなえながら数珠を回す。

1年間のやくばらいをする。



盆踊りと
子どもみこし

盆踊りは、^{せんぞ}先祖の^{れい}霊を^{なぐさ}慰める^{くよう}供養の踊りであったが、今ではその年の^{ほうさく}豊作を願う^{ねが}豊年踊り^{ほうねんおど}になったと言われている。

むかしの道具

湯川村には、むかし使ったいろいろな生活の道具が残っています。この道具をみると、むかしの人は、工夫^{くふう}して道具を作ったことがわかります。また、むかしの村の人たちはどんなくらしをしてきたかがわかります。



田植え

【農業に使った道具】



馬ぐわ



えんぶり



ひら
平ぐわ



三本ぐわ

【馬ぐわ】は、馬につけて田の土を細かくしたり、代かき^{しろ}に使ったりしました。子どもが馬の口に竹ざおをつけて馬を歩かせる仕事を鼻どり^{はな}と言いました。

【えんぶり】は、馬ぐわで代かきをしたあと、田植えがしやすいように田の表面を平らにするために使いました。

むかしは、田植えや稲かりは機械を使わず、馬や牛を使ったり道具だけで仕事をしたので、労働時間^{ろうどう}は今よりも何倍も多くかかりました。子どもも学校から帰ると田や畑の仕事を手伝いました。



ば 馬
こう 耕



代かき
(前の子が鼻どり)

稲かりをした後、よく乾燥^{かんそう}させると【せんばこき】で、稲こきをし、【とうみ】でごみをとってもみにしました。もみは、【するす】でひき、【万石】にかけて玄米にしました。玄米は【ばったり】や【水車】にかけて米つきをして、【とうみ】で吹いてぬかをのぞいて、ようやく食べられる白米にしました。むかしの作業は共同作業^{きょうどう さぎょう}が多く、【ばったり】または【水車】はどこの村にもありました。



せんばこき
(いねこきをする
道具です)



まんこく
万石
(げんまい
(玄米に分けると
ききました))



とうみ
(こくもつを
ふり分けるのに
使いました)



するす
(もみすりをするとき
使いました)



ばったり



水車の中の石うす

生活に使ったいろいろな道具

むかしの生活に使った道具には、もう見られなくなったものもありますが、今でも使われているものもあります。

かまどでごはんをたいたりしていました。

いろりには、鉄びんがじざいかぎでつるされていました。



「いろり」・「鉄びんとじざいかぎ」



「かまど」

【わらで作られていたもの】



「すかり」と「みの」

わらじなど



こたつやぐら



たんすとよぎ



はたおり機



アンカ



むかしのあかり



のらぎ
野良着

V 輝かしい先人たち

○湯川村^{めいよ}名誉村民



故^{さかき} 榊^{ばら} 原^{なお} 直^と 人

元アズマ立体地図株式会社の社長。教育
地図の作製に力を^つ尽くしました。

^{こんじゅほうしょう}紺綬褒章を受けています。

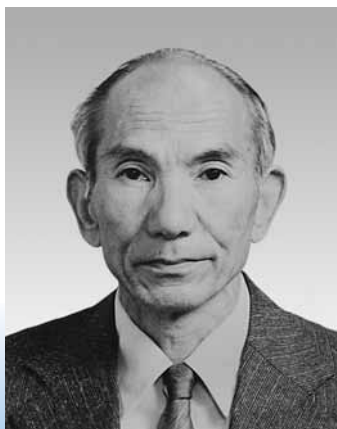
明治29年、高瀬に生まれました。

昭和59年没。

小中学校にも立体地図模型が寄贈されて
います。



会津磐梯山周辺の
立体地図模型(勝常小学校)



故^{おの} 小^{つか} 野^{みき} 塚^お 幹 雄

(画名：^{こう} 康^{たんげい} 端倪)

日本画家として活躍しました。日本画院
賞、河北展受賞をはじめ日展・院展など
で数多く入選しています。

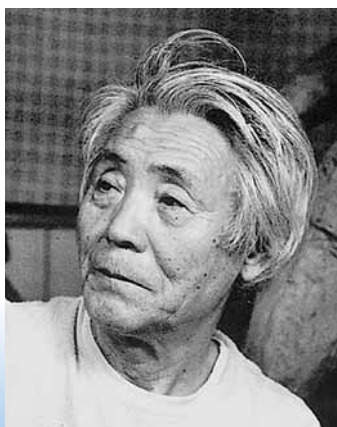
明治44年、森台に生まれました。

平成13年没。

小中学校にも寄贈された日本画があります。



^{ゆめちがいかんのん}夢違観音(笈川小学校)



故^さ 佐^の 野^{ふみ} 文^お 夫

彫刻家として活躍しました。

文展(現在の日展)・直士会入選をはじめ、
日展・自由美術展など数多く入選してい
ます。

大正7年、佐野に生まれました。

平成14年没。

小中学校にも寄贈された彫刻があります。



^{ほくどう}牧童(勝常小学校)

Ⅵ これからの湯川村

(1) これからの湯川村

わたしたちの湯川村は、会津盆地^{ほんち}の中央部にあって、会津の米どころとして発展^{はってん}してきました。会津は「ほとけの都」といわれました。いまでも東北を代表する勝常寺には、国宝の仏像をはじめ、すぐれた木造彫刻^{もくそうちょうこく}として価値のある仏像がたくさん集まっています。集落ごとにお寺があって、信仰が盛んで人びとはいろいろなことを学び、この地域の文化も栄^{さか}えてきたと言われます。

村の南がわは会津若松市と接し、東部には鉄道の磐越西線が通っています。また村内には国道49号線が東西に、国道121号線と会津縦貫北^{あいづ じゅうかんきた}道路^{どうろ}が南北に通っていて交通の便利な村です。さらに、西のさかいには阿賀川、北のさかいには日橋川が流れていて水も豊富です。

湯川村の田園地帯は、肥えた土とよく引かれた水と恵まれた気候のおかげで、大変おいしいお米がとれます。湯川村では、米のほかに野菜づくりや花づくり、和牛やにわたりのし育も行われています。また、工業団地では生産工場もでき住宅団地には新しい家が建っています。

湯川村は、「米と文化の里」を目標にかかげています。これからの湯川村は地域のすぐれたところを生かして、うまい米づくりをはじめ、豊かな生産活動にはげんでいきます。

また、交通の便利さや大切な文化遺産^{いさん}のよさを生かすことができるように、都市なみに便利で、住みよい村づくりを進めていきます。

いま村では、子どもも青年もお年よりも、一人ひとりが豊かで夢のある生活ができるように村づくりの計画をたてて歩みはじめています。

この村で育っていく私たちも、みんな元気で楽しく過ごし、よく考え、いろんな場面で協力し合い、努力して行きましょう。

(2) わたしたちの心がまえ

わたしたちの湯川村には、すばらしいものがたくさんあります。

国宝と国や県から指定を受けた数々の重要文化財、めざましい活躍をした先人たち、清らかな川、そして豊かな実りをもたらす田や畑などです。

わたしたちの祖先はそれらのものを大切にし、守り育ててきました。

わたしたちも湯川村をよく知り、ふるさとを愛し、今よりもいっそう「住みよい村、住んでよかった村」にするように努めましょう。

そして、これまで湯川村の発展につくした人びとへの感謝の気持ちと、お互いに助け合ってすばらしい村づくりのために努力をする心を忘れないようにしましょう。



年表 湯川村のあゆみ

年 号		湯川村のおもなできごと
西 暦	元 号	
1868	明治元年	「明治」になる
1873	明治6年	妙興寺に笈川小学校(仮校舎)が開校する 勝常寺に勝常小学校(仮校舎)が開校する
1876	明治9年	若松県が福島県に合併する
1880	明治13年	笈川郵便局が開設される
1889	明治22年	勝常、笈川の新村が誕生する 大日本帝国憲法ができる
1890	明治23年	河川の氾濫により、笈川・勝常両村が大きな被害を受ける
1897	明治30年	日橋川洪水となり、浜崎が大きな被害を受ける
1903	明治36年	勝常寺の薬師三尊像、十一面観音像が国宝に指定される
1904	明治37年	岩越鉄道が喜多方まで開通する
1908	明治41年	笈川巡査駐在所が笈川に置かれる 勝常村役場が新築される
1912	明治45年	「大正」になる 笈川村役場が新築される
1913	大正2年	阿賀川、湯川が氾濫して大きな被害がでる
1926	大正15年	「昭和」になる
1927	昭和2年	勝常寺聖観音像・四天王像・地藏菩薩像が国宝に指定される
1929	昭和4年	勝常寺虚空蔵菩薩像・地藏菩薩像が国宝に指定される
1930	昭和5年	日橋川の氾濫により、西向全域が被害を受ける
1934	昭和9年	磐越西線に笈川駅が開設される
1936	昭和11年	笈川郵便局、電信電話取扱いを開始する
1941	昭和16年	笈川村国民学校、勝常村国民学校と校名を改称する 西向一帯が大洪水になる 太平洋戦争が始まる
1945	昭和20年	太平洋戦争が終わる
1946	昭和21年	日本国憲法ができる
1947	昭和22年	学制改革により、勝常村立勝常小学校、笈川村立笈川小学校と改称する 笈川村立笈川中学校、勝常村立勝常中学校が創設される
1948	昭和23年	笈川村農業協同組合、勝常村農業協同組合が設立される
1949	昭和24年	笈川村公民館、勝常村公民館が設置される
1950	昭和25年	勝常中学校が新築される 勝常寺薬師堂及び国宝指定の仏像は重要文化財と改称される

年 号		湯川村のおもなできごと
西 暦	元 号	
1951	昭和26年	笈川中学校が新築される
1953	昭和28年	宮古橋ができる
1956	昭和31年	大雨により、西向に大きな被害が出る
1957	昭和32年	笈川村と勝常村が合併して湯川村が誕生する
1959	昭和34年	湯川村役場庁舎ができる
1960	昭和35年	湯川村立湯川中学校新校舎の工事が始まる 会津若松～笈川線のバス運行が始まる
1961	昭和36年	勝常保育園ができる
1962	昭和37年	勝常小学校、完全給食を開始する
1963	昭和38年	笈川保育園ができる 笈川小学校が完全給食を開始する
1964	昭和39年	村内2つ目の永久橋として王領橋が架け替えられる 湯川村公民館が設置される 新潟地震起こる。新潟地震により村内も被害を受ける 東京オリンピック開催
1965	昭和40年	浜崎・沼ノ上地区農業構造改善事業が着工される
1966	昭和41年	会津若松～下扇田線のバス運行が始まる
1967	昭和42年	湯川村農村集団電話が開通する
1969	昭和44年	簡易水道工事が始まる
1971	昭和46年	南大橋が開通する 簡易水道工事が完成し、給水を開始する 磐越西線笈川陸橋が完成する
1972	昭和47年	笈川幼稚園を開園する
1974	昭和49年	笈川幼稚園の新園舎が完成する 湯川村公民館が新築完成する
1976	昭和51年	湯川村章が決まる
1977	昭和52年	村内の農業集団電話が一般電話に切り替えられる
1978	昭和53年	センター方式による村内小・中学校の完全給食が始まる 笈川小学校の新校舎が完成する
1979	昭和54年	勝常小学校の新校舎が完成する
1982	昭和57年	高齢者コミュニティセンターが完成する 湯川村営野球場が完成する 勝常幼稚園の新園舎完成、開園する

年 号		湯川村のおもなできごと
西 暦	元 号	
1983	昭和58年	北田城址発掘調査が行われる
1985	昭和60年	国道121号塩川バイパスが開通する
1986	昭和61年	笈川・勝常の農協が合わさって、湯川村農業協同組合ができる
1987	昭和62年	湯川村保健センターができる 村民憲章、村民歌、村の花・木・鳥が決まる
1989	昭和64年	「平成」になる
1990	平成2年	新しい宮古橋ができる
1991	平成3年	湯川中学校の新校舎が完成する
1993	平成5年	「ユースピアゆがわ」が完成する
1994	平成6年	湯川村保育所の新園舎が完成する
1996	平成8年	工業団地進出企業が操業開始する 湯川村下水道事業が始まる 勝常寺の木造薬師如来及び両脇侍像が国宝に指定される
2000	平成12年	湯川村サービスセンターが完成する
2001	平成13年	放課後児童クラブができる
2002	平成14年	住民基本台帳ネットワークシステムスタート
2003	平成15年	笈川農村公園開園
2004	平成16年	新行政区【桜づつみ】の誕生 合併協議会から離脱し、自立の道を歩む
2005	平成17年	笈川運動広場の完成 湯川中学校体育館完成
2006	平成18年	特定環境保全公共下水道施設完成 第1回湯川村新米祭り開催
2008	平成20年	村コミュニティバスの利用開始
2009	平成21年	ゆがわ幼稚園(統合幼稚園)開園 会津縦貫北道路第2工区(塩川～湯川北IC間)が開通
2010	平成22年	地域活性化施設「湯川たから館」開館
2011	平成23年	東日本大震災・東京電力原発事故が発生 会津若松市に水道事業を統合
2013	平成25年	会津坂下町に学校給食調理業務を委託開始 ご当地キャラ「ゆがわまいちゃん」誕生 会津縦貫北道路第3工区(湯川北～湯川南IC間)が開通

年 号		湯川村のおもなできごと
西 暦	元 号	
2014	平成26年	湯川村朝ごはん条例を制定 ふるさと納税「寄附金3万円で米1俵(60kg)」を開始 道の駅あいづ 湯川・会津坂下が開業
2015	平成27年	新庁舎で業務を開始 会津縦貫北道路第4工区(湯川南～会津若松北 I C 間)が開通
2016	平成28年	勝常寺薬師三尊国宝指定20周年
2017	平成29年	湯川村合併60周年 記念事業として「子ども議会」が開かれる
2018	平成30年	下樽川地区西側に湯川村若者定住住宅造成工事始まる

この本を利用される先生方へ

「わたしたちの郷土湯川村」は、小学校第3学年及び第4学年の郷土学習資料として編集したものです。

○写真・イラスト・図表等をできるだけ多く使用し、目で見えてわかるように編集しました。

○湯川村の代表的な事例や資料を提示し、郷土学習の手がかりになる素材を提供しています。

○指導要領の目標・内容をよく理解し、郷土読本と自校の教育計画をよく確認して見学観察学習を効果的に取り入れ、郷土学習の興味・関心が高まるように配慮してください。

○各種の統計資料等は日々変動しているので、教材研究にあたってはそれぞれの現場に出向いて、教材化して下さい。

特に湯川村発行の「広報ゆがわ」、「ゆがわ議会だより」・JA会津よつば発行の「よつば」・湯川村教育委員会発行の「湯川村の文化財」「勝常寺の仏たち」は、村の様子を知るために大変役立つ資料です。

湯川村をよく知ることを通して、湯川村を愛する心を育んでいきたいものです。そのことが、やがてはより広い地域・日本・世界を愛する心へと広がっていきます。先生方の情熱と創意工夫によって、子どもたちの学習意欲を燃え立たせてくださるようお願いいたします。

編集にたずさわった人びと

監 修 湯川村教育委員会教育長 五十嵐 長 孝

編集委員 委員長 勝常小学校校長 渡 部 仁 一
副委員長 笈川小学校校長 蓮 沼 勉
委 員 勝常小学校教頭 齋 藤 園 子
同 笈川小学校教頭 大 坂 興太郎
同 勝常小学校講師 新井田 恵 美
同 笈川小学校教諭 上 野 和 恵
同 勝常小学校教諭 弓 田 小百合
同 笈川小学校教諭 末 永 友 佑
同 湯川村教育委員会
社会教育主事 栗 村 良 輔

協 力 員 湯川村教育委員会教育次長 真 壁 敦
湯川村教育委員会学校教育係長 東 条 純 一
湯川村教育委員会社会教育係長 高 橋 亮

※本書を作成するにあたり、湯川村をはじめ多くの方々から貴重な資料・写真等を提供していただきました。厚く御礼申し上げます。

わたしたちの郷土
湯 川 村

発 行 者 河沼郡湯川村教育委員会

発行年月日 平成31年 3 月31日

印 刷 有限会社 田 中 印 刷



田園広がる湯川村